

こんにちは(^\_^♪中央体育館の山崎です！

今日3月11日がブログ担当となったのはたまたまですが、何か運命を感じる今日この頃です。

どうしてかと言いますと、、、

ちょうど10年前の14時46分。東日本大震災は発生しました。

私は、津波は体験していませんが、町がどうなったのか、避難場所での生活はどうだったのかを多くの方に伝えていかななくてはならないと常に思っています。

今後、地震・津波が起こる確率はとても高いと言われていています。誰もが他人事ではないと思います。お時間があれば、最後まで読んでいただければ嬉しいです。

私の故郷、岩手県沿岸は巨大大津波と大地震により、町が壊滅し実家は津波に襲われました。

地震発生時は、幸いにも私の卒業式で私と両親は県外へ出ていました。これは両親の運命を変えたと言っても過言ではありません。県外でも揺れは大きくただ事ではないととても嫌な予感がした事を強く覚えています。

自分の家族・家が心配で、地震直後すぐに家族・親戚など電話をしましたが、誰も繋がりません。恐らく、全国民が一斉に連絡を取っていたからなのかもしれません。

交通機関が止まり私は愛媛に帰れず、居ても立っても居られず、車で両親と実家へ向かいました。

しかし、高速道路は混みなかなか進みません。テレビやラジオ、ニュースなどを参考に今、自分の町がどのような状況なのかを知りたく、調べるも、、、「津波の高さ1～3m。負傷者10人程度・・・」

そこまで被害は小さいのかな。とその時は少し安心していました。

8時間ほどで帰れる道を丸1日かけて帰りました。

一般道は通行止めで行けないと言われ、山を越えて町へ着きました。

町が見えた瞬間、震えと絶望感に襲われました。壊れた家の木材や電信柱、車や船が重なるように町一面に広がっていました。そして、焦げたニオイが漂い、町の広い範囲が真っ黒に。まだ、煙の出ている所もたくさんありました。

実家に向かうと冷蔵庫が倒れ、台所への通路を塞いでいました。茶の間は畳が天井に刺さり、大きな棚はひっくり返っていました。そして、片付けそびれていた7段のひな壇も無残にも散乱していました。

実家での生活が不可能だったので、避難所へ移動しました。すると、連絡の取れていなかった他家族と再会することができました。ホッとして涙がでました。兄は波に追われながらどうにか高台へ避難でき、祖母祖父は迫りくる津波から屋根にどうにかよじ登ったそうです。今となってはどう登ってか覚えていないようです。しかしそんなホッとしたのも東の間、辛い避難生活が始まりました。

私の避難場所は町営の弓道場。固く冷たい砂の床でした。そこへ、ブルーシートを敷いて休みます。

広い弓道場にストーブが5台ほどあり、波にのまれ冷え切った体を温めている方もたくさんいました。

3月といっても、東北の3月はまだまだ雪が舞うほど寒い時期です。

1～2日は車にあった食べ物を少しずつ食べしのぎました。3日程経つと、おそらく近所の方々が、お米を持ち合ったのか1日1つの白いおにぎりが配られました。あの時のただのおにぎりは人生で一番身に染みる物でした。日が経つにつれて、おにぎりが2回に増えました。まだ寒い時期なので、朝のおにぎりは少し凍っていました。そして、5日位経つと支援物資が届き始めました。印象に残っている物はヤマザキパンです。普段、普通に食べられる物がこんなにありがたい物に感じたのは初めてでした。物資が避難所に届くまでに時間がかかったのか、それとも廃棄になりそうな物でもと届けてくれたのかは、分かりませんが手元に届く時は、消費期限は切れていました。でも、そんな事に怒る方は誰一人おらず、食べられる事に感謝の気持ちしかありませんでした。

避難生活の中で、人の見たくない部分も見受けられました。苦しい今を生きなくてはならない状況での行動とは思いますが、、

- ・自動販売機を工具などを使って無理やり開け、品物・お金を取る。
- ・他人の車のガソリンを抜く。(※一度波にのまれた車のガソリンは不純になり、それを使うと故障の原因に)
- ・他人の家に侵入し物色し、盗む。

3番目は、頻繁に起こり、暗いへドロまみれの自宅に防犯の為、寝泊りしなくてはならない状況になっていました。どの様な状況での、人としての正しい判断をしていただきたいです。

今の世の中、デジタル化でスマホは必需品になっています。10年前のそうでした。しかし、携帯の電波塔は壊れ通信手段は何にもありませんでした。夜、暗くなると、移動する時にライトを点けるくらいです。しかし、日に日に電池は消費され、何かの時の為、に電源を切っておくことにしました。そこで私は、孤独状態の町から隣の市へ、自転車を借りて、唯一通れた山の上の三陸道を通ってNTTの会社へ向かいました。そこでは、無料でコンセント(電源)を使えるようにしてくれていました。ちょうど私はdocomoだったので、充電器の貸出がありました。驚いたのは、他回線の機種充電器も準備してあったことです。多くの要望があったのか、とてもありがたいサービスだと思いました。

充電をし、電波も入ったので、すぐに大切な人、会社の方に電話をし、帰る為に高速バスを予約しました。用事を終えると、また自転車で帰ります。

少し話は逸れますが、自転車で走っていると、津波の被害を受けていなかった方が店の前にテーブルをだし、無料で親子丼を提供していました。私も声をかけられ、温かい親子丼をいただきました。何日ぶりの温かい食べ物に感動と食堂のおぼちゃんの優しさにウルウルと涙を堪えながら完食しました。食の力はすごいです。何の根拠もないけど、パワー・・・生きるパワーが湧いてきたのを覚えています。

日が経つにつれて、たくさんの物資が届き、避難所生活の環境は少しずつ変わっていきました。しかし、場所が場所ですので、たくさんの方々との共同生活に心身共に疲労困憊状態でした。

わたしは、10日間の避難所生活を経て、愛媛県へ戻ることができました。

両親をおいての、帰宅はとても心苦しい所はありましたが、両親が背中を押してくれたので、帰ることができました。

途中、盛岡に住む友人の家にお邪魔して、10日ぶりにシャワーを浴びさせていただく事ができました。暖かく招いてくれた友人にも感謝でいっぱいです。その友人も実家が被災しており、両親の話・町の様子を伝えられることができました。

愛媛県に着くと、、

何とも表現できないような感情が込み上げてきました。悲しみなのか。喜びなのか。怒りなのか。

今まで過ごした状況が過酷だったので、普通に暮らしている状況が信じられませんでした。東北では地獄の様な状態・状況であるのに、、、。どこか悔しい気持ちがすごくありました。

でも、たくさんの方がなくなっていて、私は生きている。被災した方の多くが強く抱いた気持ちだと思います。生きている私出来る事は、を常に考え生活しています。

当時は、少ない給料でしたが、家族へ必要な物資を送るなど微力ですが頑張りました。

身近でできる1番のことは「大切な人と過ごす時間を大切に」かなと感じています。今の世の中いつ、どんな状況で会えなくなるか分かれませんが、「今を大切に」ですね。

色々当時の私自身の状況をお話してもらいましたが、はっきり言うと、実際に震災を経験されないと、どのくらい危ないのか・怖いのか・辛いのか、なかなか難しいと思います。でも、テレビなどでたくさん防災について放送されていると思います。是非、それを参考に備えを必ず行っていたほうが良いと思います。

最後に、私自身が、必要だと思う物・ことを少し紹介します。

物：備蓄の食品・ライト・携帯の充電器はあったと良いと感じました。

こと：災害用伝言版の使い方・家族の災害時の集合場所確認・車のガソリンを出来れば満タンに。

地震が起きたら身の安全を確保し、とりあえず最小限の必需品を持ち避難しましょう。そしてもし、津波が来たら海岸へは行かず、避難したにも関わらず、自宅や誰かを探しには行かないでください。困っている誰かを助けたいと思うのは素直な気持ちだと思います。しかし、時と場合にはその行動が自分の命が奪われることにつながります。だからこそ、みんなで声を掛け合い逃げ遅れが無いよう避難していただきたいです。

私の体験談をお話して、不快に思われた方がいられたらすみません。一被災者としての意見でありますのでご了承ください。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

頑張ろう東北！頑張ろう日本！